

会議名	令和7年度第5回小牧市こども・子育て会議	
日時	令和8年2月24日(火)午後2時	
場所	小牧市役所本庁舎6階 601会議室	
出席委員	兵庫教育大学 小学校教員養成特別コース 教授	鈴木 正敏
	名古屋経済大学 人間生活科学部教育保育学科 特任教授	長江 美津子
	小牧市教育委員会 教育委員	加藤 由美
	小牧市小中学校校長会 代表	佐藤 史洋
	小牧市青少年健全育成市民会議 代表	安藤 和憲
	小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表	田中 正造
	小牧市地区民生・児童委員連絡協議会 代表	峯田 一子
	小牧市社会福祉協議会 代表	梶田 光俊
	小牧市母子保健推進協議会 代表	夏目 恵子
	保育園長会 代表(公立園)	森島 厚子
	保育園長会 代表(公立園以外)	京谷 和恵
	保育園保護者 代表(公立園以外)	服部 友里恵
	小牧市私立幼稚園連合協議会 代表	竹川 陽子
	小牧市私立幼稚園保護者 代表	伊藤 恭子
	小牧市立学校地域コーディネーター 代表	玉置 博子
	こまき市民活動ネットワーク 代表	鳥居 由香里
	公募委員	馬場 容子
	こども・若者代表	小林 和嗣
こども・若者代表	川口 佑貴	
欠席委員	小牧市立第一幼稚園 代表	横島 ゆかり
	保育園保護者 代表(公立園)	奥村 亜矢子
	事業者 代表	小坂 武令
	勤労者 代表	河合 達夫
	小牧市小中学校PTA連絡協議会 代表	山口 祐太
	公募委員	坂 かなこ

【事務局（小川課長）】

ただいまから令和7年度第5回小牧市こども子育て会議を開催いたします。司会はこども政策課の小川が務めます。よろしくお願いいたします。

本日、第一幼稚園代表の横島委員、事業者代表の小坂委員、公募委員の坂委員の3名の方につきましては、ご欠席の連絡をいただいております。河合委員、山口委員、奥村委員におかれましては、連絡がございませんので、後程遅れてみえるかと思えます。

現在、19名の委員が出席しており、過半数以上の委員のご出席がありますので会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

また、本会議は公開となっており、本日傍聴者は2名の方がお見えになっております。

では次に、会議資料の確認をさせていただきます。

まず次第、資料1「保育提供体制の確保のための実施計画」、資料2「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の代用計画」、資料3「令和7年度第4回こども子育て会議（書面会議）における意見について」、資料4-1「めいてつ保育ステーション小牧口ぽっぽ園の概要」、資料4-2「乳児等通園支援事業」、資料4-3「「小規模保育事業所」及び「乳児等通園支援事業（誰でも通園制度）」の事業認可に係る意見聴取の結果について」以上となります。

続きまして、ここでこども未来部長の川尻よりご挨拶を申し上げるところでございますが、前の会議が長引いており、遅れての出席となりますことをご了承いただきますようお願いいたします。

では、鈴木会長からごあいさつをお願いいたします。

【鈴木会長】

=会長あいさつ=

【事務局（小川課長）】

ありがとうございました。

それでは以降の進行につきましては、鈴木会長へお願いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【鈴木会長】

それでは議題（1）の「保育提供体制の確保のための実施計画等について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（川副係長）】

幼児教育・保育課の川副と申します。

保育提供体制の確保のための実施計画について、説明いたします。

この保育提供体制の確保のための実施計画とは、市町村にとっては、保育需要と提供体制の「見える化」を図るとともに、待機児童対策や人口減少対策等に係る財政支援が行われるために必要な計画となります。

今回、議題として挙げさせていただきましたのは、令和8年度中に就学前教育・保育施設整備交付金を活用予定の自治体は提出が必須とされ、また、保育対策総合支援事業費補助金、

本市に該当する内容としては、保育士宿舎借上げ支援事業の補助要件として実施計画の採択を受ける必要があり、県への提出にあたって市の子ども・子育て会議での承認をいただく必要があるためです。

つまり、保育園の整備や保育士確保策について、国の補助を受けるために必要な計画とご認識いただければと思います。

それでは、資料の説明をさせていただきます。内容も広範囲に渡りますので、必要な点にしばって説明させていただきます。

資料1の1ページ目、1.令和7年度以降の保育需要と提供体制について、表については、基本的に小牧市こども計画と同じ内容となりますが、保育園整備等に合わせて、一部内容に修正があります。

2ページ目、2.期間中における整備内容と定員増減の予定について、3ページ目に、(仮称)第一こども園の創設と味岡キッズ保育園の増改築について記載しています。

8ページ目、A4縦のページになりますが、保育需要と提供体制における課題【特定教育・保育施設】について、次のページに財政支援を受ける「保育士宿舎借上げ支援事業」に丸をつけています。保育士宿舎借上げ支援事業について、小牧市においては、令和7年度より私立保育園等を対象に、運営法人が小牧市内に宿舎を借り上げて保育士が居住する場合に補助を行っているものです。

12ページ目に、(4)ー1①課題として、小牧市における保育需要の増加と保育士の確保について、②今後取り組むべき課題として、保育園等の整備の内容と保育確保についての必要性を記載しました。説明は以上になります。

【鈴木会長】

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして皆様からご質問ご意見等ありますでしょうか。

【田中委員】

資料1の1ページ目ですけれども、今、少子化ということで、非常にこどもたちが少なくなっているという観点から考えますと、申込者数の0歳児について、令和7年4月の実績から見まして、令和8年の4月から令和11年の4月まで人数が増えておりますが、何か理由があってなのか教えていただけませんか。

【事務局(川副係長)】

こちらにつきましては、申込者数の見込みということで、保育のニーズを試算したものととなります。

本市におきましては、0歳児から2歳児の保育料無償化を実施していることもあり、少子化ではあるものの特に0歳児から2歳児の保育所へ入園を希望する保護者の割合が高くなっていることから、申込者数を増加しているということになっております。

こちらを参考に、保育園の利用定員整備数を計画と合わせていくものとなりますので、理由といたしましては、小牧市におきましては0歳から2歳の無償化の影響を受けまして、いまだ保育需要が高いとご認識いただければと思います。

【田中委員】

そうすると子どもたちがどんどん増えてくるわけですね。

【事務局（川副係長）】

保育園の利用者数、在園児の数としては、横ばいもしくは増えていくと考えています。

例えば小学校は義務教育のため、その児童数は少子化の進行と連動した傾向にあると思います。

保育園の利用者におきましては、子ども全員が保育園を利用しているわけではなく、ご家庭で保育されている方もいらっしゃいます。無償化の影響を受けて、保育ニーズが高まってきていることから、この申込者数が増加傾向にあるということになります。

【鈴木会長】

表の就学前児童数の0歳児が885人で、それがだんだんと減っていきませんが、その下の申込者数は増えていきます。

申込率はその下にありますが、0歳児が12.5%から20.8%と申込者数の割合が増えてくるということになります。約80%はご家庭にいらっしゃるのが、80%を切ってくるという状態になるので、子どもは減っているんだけど、在園者数が増えるという状態になります。

【田中委員】

令和7年の4月1日現在の実績を見ると111人となっていて、それに対して急激に増やしているので、どういう算出方法かは分かりませんが、こんなに増えるものだろうかかと。

【鈴木会長】

無償化がどんどん広まり、増えていくのを予測して数を出されていると思いますし、それを見越しておかないと待機児童が発生する可能性が出てきます。

これでも目一杯多めにしている、これでも足らなくなることも想定できますが、一番妥当な線で20%ぐらいまで上がると予測をしているというのが実情ですね。

そのために小規模保育所をいっぱい作っていただいていますけれども、例えば他の自治体が無償化を始めたら、ひょっとすると提供したけど余ってくることもあります。そうすると小規模保育園が苦しんで閉じなきゃいけないという事態も何年か後に起こってくるかもしれません。

今のところ、提供するというのを一生懸命されているので、その根拠としてこの20%という割合を算出しているというところですね。

これをもとにして補助金をいただいて整備をしてかなくてはいけないので、あまり少なく見積もりすぎると大変なことになると思うので、これが多分ぎりぎりの線です。これでも、ちょっと困るかもしれないと思いながら、私はこの数字を見ています。

実際に無償化したから労働市場に参入されるお母様方、お父様方も多いかと思いますので、そこを支えるための数字だと思っていただければいいかと思います。

【鳥居委員】

今の内容に少し関連していますが、0歳は上がっているというのはわかりませんが、1、2歳を見たときに、申込者が令和8年度4月1日に下がって、そこから少しずつ上がってい

ます。

これは何で減っているのかというのが気になります。下がった理由があるのでしょうか。

今の話で言えば、1、2歳も増えていいのかなという気はしていたので、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

【事務局（川副係長）】

こちらの計画については、小牧市こども計画の内容が基本となっております。この計画は令和7年3月に策定されていますが、その時の内容としては、最新の保育園の利用者数、その割合を乗じて見込みを立てたという形になっています。

なので、実際に令和7年4月が始まり、実績を見てみますと、この1、2歳児の申込者数が977人という結果になりました。

実際に令和8年4月の実績を見たら、おっしゃられるように850人よりも人数が増えるということも想定をされますが、まずは最新の小牧市の状況を反映させたものが見込みとして記載されております。

令和7年4月については実績を記載したものとなりますので、そういったところから数字が下がっているということとなっております。

【鈴木会長】

さっきの話で、20%で計算していたのに開けてみたら25%になっていたとか、そういう話になるかもしれないというのを、ある程度見越しておかないといけませんね。あまり減らしすぎても困るので。

【鳥居委員】

この見込みや人数に関して、数字のとり方が中部と東部と西部という3つの区分で取られています。東部はわかりますが、中部は味岡のように人が増えているところもある、或いは逆に減っているところもあって、考える上で少しわかりづらいという気がします。小牧市では大体6つの地区で分かれていたので、その構成に合わせて、見込みを作ったほうがいいのかなと思いました。今回の3つの区分だと少し分かりづらいかなど。

【事務局（川副係長）】

このこども計画につきましては、教育・保育提供区域に係る区分けとして、3つに分けたということになっております。

西部、中部、東部とあって、確かに中部の中で見ても南側のエリアと北側のエリアで、大分保育需要も人口も差があるのは事実かと思っております。

教育・保育提供区域の設定について、国では、地理的条件、人口、交通事業などを総合的に勘案し、地域の実情に応じて、保護者やこどもが居宅より容易に移動することが可能な区域を定め、教育・保育提供区域内での需給計画を立てることとしています。

本市においては、市域や通勤圏などを勘案し、3つのブロックに区分した設定を行いました。

【鈴木会長】

区分けをあまり細かくし過ぎてしまうと、区域ごとに見込みが難しくなってきたりします。

何か建物やマンションが建ったりしたときに、その地区だけ待機児童が出てしまったりと、すごく煩雑なことになります。

区分が1つという自治体も結構あります。小牧市は中規模なので1つというのはちょっと無理ですが、1つにしてしまうと、こっちのエリアは人口が多くて待機児童が出て、こっちのエリアは人口が少なくて逆に定員割れしているところがあっても、全体で見たら待機児童が出ないというからくりになります。

小牧市の場合はそこまでせず、3つぐらいが精々かなとなるので、この区分けというのは結構難しいところですね。

開発が進む地域が出てくると、そこはたくさん待機児童が出るということにはなってしまうので、何とか区域内で調整して園に入っただけだと、そうすると待機がなく、皆さん場所を見つけていくことができるというふうになりますので、それで3つなのかなと思います。

でも、今ご覧になっている数はすごく難しく、あくまでこれは予測ですので、これがその通りになるとは限らないというところがあります。住宅が増えて小牧市の人口が増えれば、これは予想をはるかに超えて、こどもたちが入所、入園したいという希望が出てくるということですので、それはうれしい悲鳴ではありますが逆に待機児童が出てしまうという事態にも陥るということですね。

0歳児のところが増えてきているのは、先ほどの無償化をした影響で増えている自治体の方が多いので、それをもとにして計算をしているということです。

1、2歳児も多分横ばいで計算していると思いますが、予測では47、49、51%と段々と増えてくるところですけれど、実績がそれを上回っているので、ひょっとしたら計画の途中修正ということが出てくるかもしれないです。その時はまた皆様に会議の方でお諮りをして、実績はこうですので、予測をもう少し変えますという提案がされるのではないかと考えております。

補助金を申請するための根拠資料となりますので、ある程度現実的でかつ、一番上のラインというのを追っかけていくと、こういう数字になっているかと思えます。

一番困るのは、お子さんが増えて、入園が増えて、施設が増えて、それはいいですがやっぱり保育士が足りないのです、そのところで借上げの支援ですとか、ここを頑張ってやっていただくことになります。これをして人も人が集まるかっていうのが、私としてはとても心配です。

それだけ非常に重要な課題があるということで、お知りおきいただければと思います。

【安藤委員】

先ほど事務局の説明の中で、保育対策総合支援事業費補助金を活用した保育士宿舎借上げ支援事業を実施するというので、この補助金そのものの理解が私はできてないので、補助金制度の説明をしていただきたいです。お願いします。

【事務局（川副係長）】

保育士宿舎借上げ支援事業についてご説明させていただきます。

こちらの補助の対象者といたしましては、私立の保育園、認定こども園、小規模保育事業所を運営する法人が対象者となります。

この運営法人におきまして、市外から保育士を採用する場合に小牧市内に法人がアパートを借り上げて、そこに保育士に住んでもらう。その場合、法人がアパートの家賃を負担しているわけになりますので、その費用に対して市としてアパートの家賃分を補助する、こちらがこの補助制度の内容となります。

【鈴木会長】

これはいつからですか。

【事務局（川副係長）】

令和7年度から実施をしております、今、申請をいくつか受け付けているような状況となっています。

【安藤委員】

補助の額はどのくらいになるのでしょうか。

【事務局（川副係長）】

補助の金額につきましては、小牧市はいくらというのが国の制度の中で決まっております。小牧市におきましては、月額5万2,000円が補助基準額になっておりまして、この5万2,000円に対して、16分の9が法人に対して補助されます。

なので、5万2,000円がアパートの家賃だったとして、約2万9,000円が補助されるという形になります。

【鈴木会長】

これは助かりますよね。京谷委員のところでは使ってらっしゃいますか。

【京谷委員】

現時点では私たちの園では活用していませんが、通常、法人だけの補助では入職者が半額払わないといけなくなってしまうことが多いです。市から補助を出していただくと、ほとんど払わなくてよくなります。入職希望者が増えるというのはすごく助かると思うので、こちらは本当にありがたいなと思っています。

【鈴木会長】

これでどこからでも小牧市に来てねと言えるのが、嬉しいことかと思っておりますので、ぜひ続けていただけたらと思います。

議題はここまでとなりますが、こどもたちの入園希望が増えているということ、保育士さんの採用に関しても頑張って小牧市に来てもらおうという施策をするということで、事務局の方で頑張っていらっしゃるということでした。

次の会議のときに、定員が足りなくなりましたとか、保育士が来ませんという話にならないように、また皆様のお知恵をお借りしたいなと思っていますところでは。

それではこちらの議題についてはこれで終了とさせていただきます。次に、報告に移らせていただきます。報告(1)の乳児等通園支援事業、いわゆる誰こども誰でも通園制度の代用計画策定についてということで説明をお願いいたします。

【事務局（川副係長）】

資料2をご覧ください。こちらは書面会議で送付させていただいた内容と同じものになります。現在のこども計画に記載されていたこども誰でも通園制度の確保の内容について、「実施体制を検討中」としていたものを、令和8年度からの実施体制が整いましたので、その内容を反映いたしました。

まず中段に記載されております「量の見込みと確保の内容」についてです。

これまで示していた量の見込みについては、国の計算式に基づいて記載しておりましたが、先行実施している自治体に利用実績等を確認し、修正しました。修正にあたっては、小牧市内における一時預かり事業の利用率を参考にした係数を乗じたものになります。

下段に記載されております「量の見込みと確保の内容（提供体制）」についてです。

令和8年4月の実施施設は、私立の保育園、認定こども園、小規模保育事業所の合計8施設と公立の小規模保育園こすも、子育て世代包括支援センター、大城児童館を含め、合計11施設で実施いたします。それぞれの施設の状況に応じて受入れを行っていきます。

令和9年度以降は、（仮称）第一こども園での実施を予定し、今後、公立の保育施設の建替えにあわせて実施を検討いたします。

また、誰でも通園制度の実施施設と市内の保育園等との連携・情報共有に努めるほか、幼稚園における満3歳クラスの活用を促進するなど、誰でも通園制度の利用を終了したこどもの保育施設等への利用について円滑な移行ができるよう支援する旨を計画内容といたしました。

続きまして、資料3をご覧ください。

書面会議として資料送付させていただいた代用計画に対する委員からのご意見になります。ご意見・ご質問ありがとうございます。いただいたご意見等について、回答させていただきます。

それでは、峯田委員よりいただいたご意見についてです。

こども誰でも通園制度の実施にたくさんの施設の協力が得られたことへの安心するお声の一方で、保育や教育に関わる方々の負担増加と安全な保育体制についてのご意見です。

多くの施設にご協力いただけることは本市としましても、大変心強く感じております。

一方で、現場負担や保育の質への影響については、市としましても重要な視点であると認識しているところです。誰でも通園制度の実施にあたっては、基本的に専従の保育士を配置しますので、本体の保育士の業務とはすみ分けができます。また、検討中ではありますが、市が実施している保育士の研修の中で誰でも通園制度の内容にふれたり、誰でも通園制度の担当者同士の情報交換や意見交換の場を設けるなど、質の確保に努めていきます。

峯田委員からご意見いただいたように、現場の状況を確認しながら、安全な保育体制が確保されるよう、保育士の負担と質の確保について、バランスよく進められるよう、実施施設の支援を引き続き行ってまいりたいと考えています。

次に竹川委員からいただいたご意見等についてです。

量の見込みを減少させたことのご質問と、一時預かり事業との違いや誰でも通園制度の実

施にあたっての課題等についてです。

まず、こども誰でも通園制度を、一時預かりと同じ制度だと考えているわけではありませんが、今回の「量の見込み」、つまりどのくらい利用が見込まれるかの推計にあたっては、誰でも通園制度の利用対象者と一時預かり事業の利用対象者が重複することもあり、事業は似ている部分があるという理由から、参考値として一時預かり事業の利用実績を用いました。なお、ここで参考にした「一時預かり事業」は、幼稚園に在園しているお子さんの預かり時間を延長するタイプではなく、こども誰でも通園制度と利用形態が近い、保育園や子育て世代包括支援センターなどが実施している、未就園児を一時的にお預かりする一時預かり事業の利用実績です。

他の自治体の状況ですが、近隣では、春日井市や扶桑町が、令和7年度にこども誰でも通園制度を先行実施しておりまして、それぞれ問い合わせましたが、国の計算式通りの利用者数には至っていない状況でした。

また、制度の実施にあたり、施設側においては、人材確保、受入れ調整やキャンセル対応、面談記録、国のシステム対応による負担増など、様々な課題があることは承知しております。

今後、全国一律でこの制度が本格的に始まった際、どのような状況になるかは、現段階で予測しづらい部分ではありますが、市としましては、制度開始後の利用状況やニーズ、現場の負担感などを丁寧に確認しながら、誰でも通園制度の実施施設と課題や情報を共有し、制度の実施運営に取り組んでまいります。

貴重なご意見をありがとうございました。

【鈴木会長】

ありがとうございました。

今のご回答ですけれども、峯田委員、竹川委員いかがでしょうか、何かコメントがあれば。

【峯田委員】

ご説明いただきありがとうございました。

【竹川委員】

私立幼稚園の代表として参加させていただいていますので、他の10園の意見を聞きながら、このような質問をさせていただきました。

ニーズだとか、現場の負担感だとか、ぜひ情報提供していただいて、今後どうしていくかということをもたえて参りたいと思っております。ありがとうございました。

【鈴木会長】

まだ海のものとも山のものともわからない制度ですので、先行実施したところも含め、なかなか思ったように進んでないところもあると聞いております。

制度としては周知がされるようになってきますので、保護者の方もひょっとしたら使ってみようかなと思われる方も増えてくるかもしれません。

本当に予測不可能なところ、情報共有というのは非常に大事なことでありますので、小牧市さんの方で、そういった連携とか情報共有をしっかりといただくということで8年度に期待したいなと思っております。

引き続き子育て会議の方で報告をしていただきながら、対応策を皆様にお諮りしていただきたいなと思っております。

それでは、報告の（１）は終わりましたので、次に報告（２）家庭的保育事業等部会からの報告について、よろしくお願いたします。

【事務局（加藤係長）】

幼児教育・保育課の加藤です。よろしくお願いたします。

家庭的保育事業等部会からの報告の前に、今回、事業認可にあたり意見聴取しました、小規模保育事業所「めいてつ保育ステーション小牧口ぽっぽ園」及び「乳児等通園支援事業の認可申請の状況等」につきまして、概要をご説明します。

資料４－１をご覧ください。

「めいてつ保育ステーション小牧口ぽっぽ園」は、市の事業認可を受けて、本年１月４日に開園した、市内で２３施設目の小規模保育事業所です。

設置主体は、「株式会社名鉄スマイルプラス」で、現在、市内のマックスバリュ小牧駅西店の一角において、小規模保育事業所を２施設運営しています。

施設の所在地は、北外山で、名鉄小牧線 小牧口駅から南西へ約 200mの位置にあります。

定員は、０歳児と１歳児それぞれ６人、２歳児は７人、合計１９人です。

現在、０歳児が５人、１歳児が７人、合計１２人のこどもが在園しています。

施設の外観や内装につきましては、資料に掲載している写真をご確認ください。

次に、資料４－２をお願いします。

乳児等通園支援事業につきまして、「みなみ保育園」をはじめ、合計１１施設から認可申請を受理しました。

事業類型、実施曜日・開所時間、定員、食事提供の有無は一覧に記載のとおりです。

市全体で、０歳児が１３人、１歳児が１６人、２歳児が１７人、合計で４６人の定員枠となります。

いずれの施設も令和８年４月１日に事業を開始する予定です。資料２ページ目以降に、認可申請をいただいた施設の概要を掲載しておりますので、ご確認ください。

概要の説明は以上です。

家庭的保育事業等部会の報告につきましては、部会長の長江委員より、お願いたします。

【長江委員】

家庭的保育事業等部会長の長江です。部会の開催結果について報告をさせていただきます。

資料４－３をご覧ください。

令和８年１月５日に開園した小規模保育事業所『めいてつ保育ステーション 小牧口ぽっぽ園』と、乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の実施を予定している１１施設の事業認可にあたり、部会委員の意見を聴取するため、昨年１２月１８日に部会を開催しました。

部会には、４名の委員が出席されまして、それぞれの事業に対して意見をいただきました。

まず、小規模保育事業所「めいてつ保育ステーション小牧口ぽっぽ園」につきましては、２つの意見がありました。

1つ目は、送迎用駐車場から園の玄関までの交通安全の確保についてです。

資料4-1の裏面をご覧ください。資料の左下に送迎用駐車場があり、園の玄関は資料の真ん中にある園舎の右下に位置します。矢印のとおり、送迎用駐車場から園の玄関に行くまでに、一旦、歩道のない道路を通行する必要があります。

このため、保護者へ注意喚起する等、交通安全に努めること、また、開園後、送迎時間帯の交通量を把握した上で、交通安全上の支障がなければ、資料の右側にある職員用駐車場と送迎用駐車場の入れ替えを検討する必要があるとの意見がありました。

2つ目は、保育室の空間づくりについてです。

0歳児から2歳児までの保育室がオープンで見通しが良く、保育士の連携がスムーズになると思いますが、こどもの発達段階に応じた保育環境の整備も重要です。

0歳児については、天井に布を張って天井を低く見せる工夫をしたり、パーテーションで視覚的な仕切りをする等、落ち着いた環境で安心して過ごせる空間づくりに努めてほしいとの意見がありました。

次に、乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）についてです。

この事業に関しては、主に2つの意見がありました。

1つ目は、「まことまはら保育園」に対する意見です。

同園は、令和8年4月の開園にあわせて、こども誰でも通園制度を実施することになります。

新設園であるため、職員は慣れない環境で保育を行うこととなりますので、職員同士で積極的に声を掛け合い、情報を共有して、連携を密にしてほしいとの意見がありました。

2つ目は、利用者に対して給食の提供を行う「まことまはら保育園」と「とやまこども園」に対する意見です。

在園児とは異なり、園生活に慣れていない子どもを預かることになるため、給食を提供する際は、食物アレルギーや、当日の体調などについて、保護者と十分に情報を共有し、安全に配慮した食事の提供に努めてほしいとの意見がありました。

これらの意見につきましては、今後の施設運営等の参考にしていただくため、市担当部署に伝えております。

以上で家庭的保育事業等部会の開催結果について報告を終わります。

【鈴木会長】

ありがとうございました。

ただいまの報告について、ご意見ご質問等ございますでしょうか。

【田中委員】

資料4-2のナンバー9、10、11の園です。

先般、市長選挙がございましたが、資料の中では代表者職氏名が、小牧市長山下史守朗と書いてあります。開園予定日が令和8年4月1日ですので、新しい市長になった天野さんになるのでしょうか。

【事務局（川副係長）】

こちらの認可申請のタイミングといたしましては、令和7年11月に審査、書類の受け付

けをいたしまして、その内容を記載したものにになりますので、このような表記となっております。

実際に制度運用する際には、新たな市長名で文書等は発出されていきますので、ご安心いただければと思います。

【鈴木会長】

部会の方でしっかりご意見を言っていたと思いますが、なんで駐車場はこんなことになっているんですかね。大人は歩けばいいのと思うんですが。

その辺をいろいろ考えていただいて、とにかく事故のないように安全に運営していただければと思います。アレルギーのこともすごく大事なことだと思いますので、しっかりと助言していただきまして、ありがとうございました。また監督の方も市の方でよろしく願いいたします。

これで本日の内容は終了となりますが、今日で最後ということでもありますので、公募していただいたりとか、役職であったりとかいろいろ事情はあろうかと思いますが、皆さんから一言ずついただいてから終わりたいなと思っています。川口さんの方から順番に、感想でも何でもいいので一言お願いします。

【川口委員】

僕が今すぐこういう事業を活用することはないですけど、いずれは自分も使うことになるかもしれないので、早いところからこういう会議に関わることができたのは、これからを見ていくと、すごくいいことかなと思いました。

自分の友達も、結婚して子どもがいる子も何人かいたりするので、そういう子にこういうものがあるよとか、発信じゃないですけど、そういうこともできるようになっていると思います。

直接的な関わりはないにしろ、こういう知識があるというのは今後にもプラスになると思うので、すごくいい経験になったなと思いました。

【小林委員】

自分も小牧市でこういう取り組みをしているっていうことを全然知らなくて、小牧市の将来のことについて、皆さんでしっかり考えて、どんどん良くしていこうっていう会議に参加できて、とてもいい経験になりました。

自分と同じように、同じ世代の人は意外とこういう取り組みをしていることや小牧市ってこういう子育てしやすいまちなんだっていうことを知らない人が結構いると思うので、以前の会議でも言ったんですけど、こういう良いことをやっているんだよ、みたいな発信ができると、もっと若者たちもここで結婚しようかなとか、ここに住もうかなみたいになると思うので、そういう発信もしていってもらいたいなと思います。

【馬場委員】

新しい施設や新しい制度が取り入れられて、喜ばしいことですが、基本はやっぱり、子どもを安心して預けられる保育の質を一番に考えていただけたらということをお願いしています。よろしく申し上げます。

【玉置委員】

私は小学校の地域コーディネーターをやっておりまして、世代的にお孫さんがいる方が多いです。話を聞くと、こども誰でも通園制度っていうのをやはり知らない方、若い方も特に知らない方が多いっていうことをよく耳にしますので、ぜひ市長さんが代わられたということで、市長さんを前面に出して、周知してもらえるといいかなって思いました。

【伊藤委員】

私は私立幼稚園の保護者代表として、この会議に参加させていただきました。

今までは知らなかった、こども誰でも通園制度も、たくさんの小規模園が開園していることも知りませんでした。知らなかったことをたくさん知れて、特に私の甥っ子、姪っ子がもうすぐ保育園にお世話になるので、こういうところだったら楽しく過ごせるんじゃないかと安心することができました。本当にありがとうございました。

【服部委員】

1年間を通して、日常では触れることのないことまで話し合いをされていて、だから小牧市って住みやすいな、そういうふうに思いました。

いろいろな方の意見を聞いて、こういう意見もあるっていうことをつくづく思いました。

ありがとうございました。

【京谷委員】

私は保育園の園長としてなので、先ほどの宿舍借り上げなどご配慮いただいたり、こどものニーズに応える前にまずは受け入れの体制が必要というのがあるので、施設もそうですけれど、人材の確保というところで、もっとできることがあれば、一緒にさせていただきたいなというふうに思います。今年度はこれで終わりますけれども、引き続きお願いしたいなと思っております。またよろしく願いいたします。

【森島委員】

1年間ありがとうございました。

本当に毎年、今年は誰でも通園制度もそうですけど、いろいろな事業が組み込まれてきて、保護者支援という意味合いもあるのかなと思いますが、一番はこどもにとってよりよい保育を目指して、これからも頑張っていきたいなと思っています。ありがとうございました。

【夏目委員】

1年間ありがとうございました。私は母子保健推進会議の委員として参加させていただきました。

質の面では保健センターの保健師等がお手伝いできることがあるかなと思いますので、また健康面とか、何かあるようでしたらお声掛けいただければと思います。

私はあちこち転勤して回っているんですけど、小牧市さんは母子保健が進んでいるなと思うことがありまして、保健センターでも5歳児健診、他の市町村に比べていち早く取り組まれている。

こどもさんの未来のことを本当に真剣に考えていらっしゃるなというのをよく感じております。

乳児さんの保育料無償化ですとか、この度のこども誰でも通園制度についても、私たちはお母さんたちが初めて働くとき、面接に行くとき、やっぱり預かってもらえるところがないという意見も聞いておりましたので、そういったところで上手く活用していただけるように、また周知していただけるといいかなと思いました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

【梶田委員】

ボランティアセンターの梶田です。この会議に参加させていただいていますが、よく感じるのは小牧でこどもを育てることに対して、本当に手厚く支援をしていただいていると感じます。

ただ、すべての土台は人と人の繋がりがかなと思うので、いろんな支援が行き届けば行き届くほど、人と人の繋がりが薄くなるのも悲しいなっています。

そうならないように、やはりやっぱり人と人の繋がりが厚くなるような形で、いろんな施策を進めていただければなと思っています。

【佐藤委員】

小牧原小学校校長の佐藤です。

普段、小学生、中学生を見ているのですが、0歳児の生まれたときから、もしかすると生まれる前から市として見守って、育てて小学生中学生に上がってくるだということを改めて感じて、頑張らないかなという思いになりました。

それと、職員の中にも子育て中で保育園に通っているものが結構あります。それから、育休から戻ってくるときに、保育園に入れるだろうかという相談にもよく乗ることがありますが、今後は大丈夫だよって言っていきたいと思います。

【加藤委員】

教育委員の加藤でございます。

本当にこどものためにどうあるべきか、というところを根本において、いろいろお話が出て、私もすごく勉強させていただきました。

保育の質と保育の量を高めるということがもう随分前から言われてきているので、量の部分については、小牧市はかなり確保されてきている状態かと思います。

その中で、先ほど家庭的保育事業部会の方からの報告でもありましたが、入園できる施設ができてこれだけの人数は確保できる、ただそのこどもたちが保育を受けるその施設がどういう環境であるのかというのが本当に重要なところなので、環境面でこどもが遊びやすい、過ごしやすい、こどもにとってどうあるべきか、というところでご意見を出していただいたかと思います。

これから質の部分をしっかり和高めていけるような方向で、いろいろな取り組みが出てくるかと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

【長江委員】

家庭的保育事業等部会の方もさせていただいて、そこで小規模保育園が増えるたびに、こういった検討、話し合いをさせてもらっていますが、どんどん箱物は増えていく。

それは数字として待機児童ゼロというところは、目標にしやすいし、数字としてもわかりやすいですけども、逆にそこの中の質というのはどうなのか、自分たちが話し合っただけでスタートされた保育所が、1ヶ月2ヶ月も経たないうちに隙間バイトを雇っているということを目にすると、よかったのかなと思います。

逆に、隙間バイトにこられた人が園の雰囲気がいいからといって正規の職員になられた、ということも聞いております。

質というところでは、特に0、1、2歳のこどもたちに関わっているところで、こどものことに毎日関わって、その中で愛着を育みながら、保育の質が高ければこどもたちの生きる力の方にも繋がっていくと思います。そういう点では箱も大事ですけど、質ということも大事にできるよう、これからもいろいろと指導や研修に参加しやすいような体制をとっていただけたらありがたいかなと思っています。

また保育の養成校にいる立場からすると、学生が一番にお給料の高いところを選んで仕事受けます。少しでもお給料が上がる、給料が上がればそれで自覚を持ったり、プライドを持って関われると思いますので、給料も上げていただけるとありがたいと思っております。ありがとうございます。

【鈴木会長】

皆さんありがとうございました。

志だけでは、なかなか来てくれない時代になってきましたので、本当に宿舎の借り上げですとか、できることから始めていただいて待遇を良くしていただくと、多分働きたい子が増えるかなと思ったりします。

ただ、全国的に人気がなくなってきているので、そうじゃないんだよということ広報しながらしていただければなというふうに思います。

養成校の希望者が、受験者がどんどん減っています。私どもの国立でも減っています。学校の先生もブラックだと言われ続けているので、何とかしなくてはですね。

でも、こんなにやりがいのある仕事はないんじゃないかなとも思いますし、先ほどの隙間バイトから、そこが良くてそこで正規で働きたいということもあるということですので、ぜひ自信を持ってやっていただけたらと思います。

午前中は小牧第一幼稚園に行ってきました、5歳の子たちも1年生になるんだなと思いつつながら来てくれたけども、ぜひこの子たちの未来が明るいものでありますようにと思っています。

県の方からも見に来られて、小牧のことを褒めちぎって帰られたらしいので、本当に自信を持っていただけたらと思いますし、これが続くように、このこども・子育て会議で皆様のご意見をもとにしながら、ときにはちょっとプレッシャーをかけながら、時には褒めていただきながら、この会議をまた進めさせていただきたいと思っています。

今年度で委員を終わられる皆様、本当にこの1年間ありがとうございました。

また他のところに行かれましてもぜひ、小牧の子育ていいぞ、を合言葉にやっていただければなと思います。

また新しく入られる方をご存じでしたら、ぜひこういった会議で意見を出していただくと、本当に助かることですし、こどもたちの将来に役立つことですよとお伝えいただいて、次の方に繋いでいただければと思います。1年間ありがとうございました。

部長も帰って見えたので、部長にマイクを渡したいと思います。

【事務局（川尻部長）】

こども未来部長の川尻です。

小牧市は子育て支援に力を入れておりますが、市長が代わったとはいえ、この方向性は基本的に変わらないと考えております。

また、何かまた違うことをやることになれば、当然このこども・子育て会議でご報告をさせていただき、ご意見をいただきながら進めていくものでありますので、この流れも変わらないと思っております。

この会議は、非常に活発に意見が出ますので、我々も緊張しながら準備をしますが、それを上回るような形で皆さんご意見を言っていただけるので、その分計画の方も充実しているのかなと思っております。

また、今年度で代わられる方もお見えだと思いますが、来年度はこども計画の中間見直しもいたしますので、委員として残られる方につきましては、来年度も引き続きよろしく願います。本当に1年間ありがとうございました。

【事務局（小川課長）】

鈴木会長、議事進行ありがとうございました。

では次に次第の4 その他の方に移らせていただきます。

小牧市こども子育て会議は今年度書面会議2回を含めまして、計5回開催をさせていただきました。

委員の皆様にはご多忙の中会議にご出席をいただき誠にありがとうございました。

例年でありますと最後の会議のときに、来年度のこども子育てに関する、取り組み、事業などについて少し説明させていただいておりますが、市長が代わったばかりということで、これから議会の方に来年度の予算等についてお諮りして議決をいただくところになって参ります。そのため、この時点ではご説明ができませんが、後日、市ホームページ等に来年度の予算、取り組みについて公表して参りますので、そちらでご確認をいただければと考えております。

また来年度につきましては、6月10日に第1回目の開催を予定しております。令和8年度の具体的な取り組みにつきましては、こちらの方でもご説明をしていきたいと考えております。

それから皆様の任期につきましては5月29日までとなっております。任期満了に伴う委員改選後に第1回会議は開催することになります。ご参加いただく方の顔ぶれも変わるようになるかと思いますが、皆様におかれましては、今後もそれぞれのお立場で引き続き、小牧市のこども子育てに関する支援を賜りますようお願い申し上げます。

それではこれもちまして、令和7年度第5回小牧市こども子育て会議を閉会いたします。

す。本日は誠にありがとうございました。